

大勢の観客を沸かせた大鹿歌舞伎の公演。金子ゆかり市長(右から2番目)も特別出演した



大鹿歌舞伎 会場一体で 盛り上がり

諏訪公演に800人

第46回諏訪市芸術祭「大鹿歌舞伎 諏訪公演」が24日、市文化センターで開かれた。大鹿歌舞伎保存会と金子ゆかり市長が出演し、迫力ある演技で約800人の観客を魅了。

役者の登場シーンや見せ場では客席からおひねりや歓声が送られ、会場が一体となって盛り上がりつつあった。

この日は2演目を上演。「白浪五人男 大鹿の段」では、金子市長演じる弁天小僧ら盗賊5人組が押し入りに失敗して名乗りを上げ、大鹿軍内らの追っ手を払いながら逃げていく場面を熱演した。演者が1人ずつ見得を切って名乗ると、観客は「よっ」「いいぞ」

などと声援。笑いも起こった。「鎌倉三代記 三浦別れの段」では、恋と孝の板挟みになって苦悩する時姫の姿を情感たつぷりに表現。最後は全員で締め「手打ち」を行い、幕を閉じた。

大鹿歌舞伎は下伊那郡大鹿村で300年以上にわたって伝承されてきた地芝居で、国の重要無形民俗文化財。市文化センターでの公演は16年ぶり3回目という。保存会会長の熊谷英俊・大鹿村長は開演のあいさつで「芸術の香りと文化を感じるホールで演じることができて、光栄。最後まで堪能してほしい」と呼び掛けた。

(松本佳林)